

平成28年度 第1回 蕨市立図書館協議会 会議録

開催日時	平成28年12月3日(土) 午前10時から12時7分まで
開催場所	蕨市立図書館 3階 会議室
議題	(1) 会長及び会長代理の選出について (2) 平成27年度事業報告及び決算について (3) 図書館耐震事業について (4) 蕨市子ども読書活動推進計画について (5) 蕨市立図書館の開館時間について (6) その他

公開非公開の別 公開(傍聴人なし)

出席者氏名 <出席委員>

町田敏子委員、堀越孝男委員、蓮沼昌代委員、近江睦代委員、永井雅幸委員、秋山廣紹委員、宮田ゆみ委員、岡本和子委員、田中京子委員、石丸祥子委員

<事務局：図書館職員>

小松館長、樋口館長補佐、菅谷奉仕係長

会議の内容 会議の主な内容については次のとおり。

館長補佐から開会し、館長から委嘱状交付、館長あいさつ、自己紹介、資料確認の後、議題に入る。

(1) 会長及び会長代理の選出について

条例第7条の規定により互選の結果、町田委員が会長、蓮沼委員が会長代理に選出され、会長から代表してあいさつを行った。

(2) 平成27年度事業報告及び決算について

奉仕係長が議題2資料の主な内容を説明し、質疑応答に入る。

委員：中学生ワーキングウィークは、本人の希望で図書館に来ているのか。

事務局：生徒からの話では学校によって直接図書館を希望するのではなく、公務員コースや民間等のコースの中から公務員コースを希望して来ることもある、とのことである。

委員：蔵書について、開架書架の収蔵量は限度があり定期的に入替も必要と思うがどうか。

事務局：開架書架は限度があり、毎年入替が課題となるため分館を含めて対応している。休館中の北町分館は再開時に書架を増やすことも検討されているので、収蔵量の増加を図りたい。

事務局：新年度予算で強く要望したが、他にも優先度の高い課題があり、難しい状況である。

委員：障害者サービスには利用がないものがある、との報告があったが、どのような状況か。

委員：視覚障害者が高齢化し、来館するにはガイドヘルパーの手配等の問題があり、直接久喜図書館へ申し込む方が利用しやすい。1人で来館できる障害者は勤めており、開館時間中に利用することは難しい。点字毎日の利用者はいるが、中途失明の方は点字に慣れておらず、録音資料を活用する人が多い状況である。

委員：デイジーの録音は朗読ボランティアが行っているのか。

委員：対面朗読室の録音環境は最適と言えず、朗読ボランティアが総合社会福祉センター内で行うことが多い。朗読ボランティアはボランティア連絡会の所属で図書館の登録ではない。

委員：私は子供よりも認知症の高齢者との付き合いが多い。その中では認知症であっても、昔読んだ本や聴いた曲はよく覚えている人がいるので、図書館を活用することもある。

委員：障害者ボランティアは図書館だけでどうという問題ではなく、もっと上手く関係機関とも連携、周知を図れば良いと思う。折角あるのだからお互いに情報共有に努められたい。

(3) 図書館耐震事業について

館長補佐が概要について説明を行った。(質疑応答は特になし)

(4) 蕨市子ども読書活動推進計画について

奉仕係長が議題4資料の主な内容を説明し、質疑応答に入る。

委員：家庭教育アドバイザーの資格講習の中で「クシュラの奇跡」という、余命短い重病者でも五感に訴え毎日本を読みハグすることで障害を克服してほぼ健常者となる話を知った。最近スマートフォン片手の親が多くスキンシップ不足を感じるし、若い親は読み聞かせの経験がない等、子育てで一番大切なことが忘れられているように感じる。幼稚園・保育園でのリスト配布の進捗状況が十分ではないが、ブックスタートからこの時期までにスキンシップと読み聞かせを行うことが大きな影響を与えると思う。小中学生になってからでは遅いと思うので、この時期に積極的に推進していただきたい。また、一中でビブリオバトルの県予選に参加したが、図書館でも開催出来れば、中高生の読書の推進に繋がるのではないかと考えるので、ぜひ検討していただきたい。

委員：最近電車の中で、親がスマートフォンに夢中でベビーカーに乗せた1歳位の子供が車内で転がる場面に遭遇した。過去のアウトメディア推進大会では、対話が大切なので不要という講師、大学の授業等で必要になるので早く使った方が良いという講師の両極端な意見を聞いたが、学校現場としてはどのように考えているのか。

委員：賛否両論あり、答えはないと考える。上手く使えば便利、間違えれば危ないもの。学校に求められても把握、教育しきれない状況である。読書離れの心配もあるが、親は安全のことも含めて渡していることが多く、与えるのは親、指導は学校と考える家庭もあるが、学校が責任を負うことには疑問がある。アウトメディア推進大会の講演は聞いたが、大学になればレポート等で使用できないと困るので中高で教育、家庭でも使わせる必要が出てきているのは事実である。上手く使っていくことが大切である。

委員：学校での状況は計画の取り組みも含めてどうか。

委員：学校はクラスごとの団体貸出に感謝しており、今後も継続していただきたいと考える。

委員：夏休みの課題図書・推薦図書が毎年あるが、学校図書館には置いているのか。

委員：学校により事情が異なる。学校で推薦する本として販売することもある。司書教諭に推薦図書等の紹介は来るが、学校の予算によって配置する場合もある。

委員：図書館で借りて読む児童生徒はどうか。

事務局：毎年5冊ずつ購入しており、1人で独占することがないように通常2週間の貸出を1週間に制限し、なるべく多くの児童生徒に夏休み期間中、読んでもらえるようにしている。

委員：5冊では少ない、待たなくてはいけない、ネット予約も早くからしなければならぬという話も聞くので、増やしてもらえないか。

委員：課題図書はその期間だけしか活用されない。副本の関係で利用が集中するからと安易に増やすと在庫が増え、その後の対応に困ってしまう。どうしてもこの本を利用したい、ということであれば、予約を待つだけではなく、自分で購入することも方法であると思う。

事務局：課題図書は予約の対象外としているため、予約待ちを出来ないようにしている。

委員：課題図書等は読書感想文に直結している。自由図書と課題図書があり、その中から感想文を書くことになる。推薦図書の方が関心は高く、学校も勧めているのではないか。

事務局：人気がある本であれば買ってはどうかと想っていたが、出版業界から要望書も来ており、簡単に言えば、公立図書館で大量に購入されると小さな書店は経営に影響する、という話もある。買って欲しいが買い過ぎないように、という業界からの要望と認識している。

委員：本の定価が高いのではないか。

委員：諸外国に比べると日本の単行本は安い。

委員：先ほどの「クシュラの奇跡」は1,728円であるが、古本で安く購入できる。

委員：次期の計画で大きく変えてほしい点がある。1次計画は公共機関の状況だけを集約したものとなっており、てんとうむしの会、よみっ子、学校のボランティアの方たちが、直接、子供たちの読書活動を推進している現状にほとんど触れられていない。進捗状況では「家庭・地域における子ども読書活動の推進」中、「子ども読書活動に係わる団体・グループの支援」だけであるが、この項目の中にこそ多くのボランティアが予算も無い中、実績を多く有しているので計画に明記してほしい。また、学校でのリスト作成は正直難しいので、図書館が積極的に連携して学校に示した方がやりやすい。さまざまなボランティア団体は学校や施設で把握しているので、図書館が中心となって、学校図書館教育支援員も含めて子ども読書活動の推進に係る関係者を集めて意見交換等が行える機会を提供してほしい。もっと広い視野で子供の読書活動が推進できるように、ぜひ取り組んでいただきたい。

事務局：ボランティア団体の一つひとつは熱心に取り組んでいると思うが、連携ができていないと感じる。図書館としてもさまざまなボランティアの方に集まってもらい、学校にも参加してもらえよう、読書活動の連携に取り組んでいきたい。

委員：電子書籍も増え、今後は対応が必要になると考えている。推進計画は、効果を見る点で数値化も必要である。リスト作成についてはワーキングウィークの中学生のおすすめ本のようなものを図書委員等が学校活動で作成し、読み聞かせ団体のおすすめ本も期間を決めて図書館が集約して配布すれば、幼稚園・保育園は難しいかもしれないが、小中学校では項目を達成できるのではないかと。1か所だけではなく、みんなで少しずつ作成して、図書館が集約・発信すれば良いと思う。最初は難しいと思うが、上手く進めていただきたい。

委員：幼児から本に親しむことが大切との思いからお話会に携わっているが、参加者が1桁ということも多い。保育園は難しいが、対象を入園前の幼児とすれば、時間帯を午後よりも午前中とした方が良いかと思う。旭町公民館で月1回入園前の幼児を対象に同様に行っているが、関心のある親や保育園に行かない子の保護者もいるので、ニーズはあると考える。

委員：お話会はボランティアの中で対応できる人がいれば良いと思う。ボランティアは高齢化していることもあり、時間を合わせるが大変な方もいるのではないかと。

委員：てんとうむしの会に限って言えば、午前中でも動ける人はいると思う。また、市のアクティブシニア事業も始まったので、60歳以上で関心のある人に参加してもらえようになれば良いと思う。

- 委員**：関係するボランティアが集まる場があれば、もしかしたら福祉団体のところにも月1回でも、と活動につながり、施設の利用というだけではなく、支援も可能になると思う。
- 委員**：本当に話したい人は公民館や公の場には来ない傾向にある。学校や公共施設に拒絶反応がある方もいるので、家庭教育アドバイザーの中では、例えばスーパー等の一角でブックトークを行う市もあり、その方が図書館等に好きで来る人とは違って本当に聞いてほしい人に集まってもらえる。また、2020年までにタブレット端末を一人一台整備し、教科書を電子化しようという計画があり、就職も進学もエントリーはパソコンという面もある中、本があることが大切である、という点から読書活動を推進できればと考える。私自身も、図書ボラ通信を発行しているが、来年には全中学校まとめて作っても良いと考えている。私たちが子供たちに読んでほしい本と、子供たちが読みたい本の間にギャップはあるが、そのことも含めて紹介していくことが大切だと思う。
- 委員**：図書館の項目で「学校への貸出体制の整備」に「(授業等に使うための資料の貸出等)」とあり、結果「有」となっているが、団体貸出に比べ、授業等の支援は教員に十分知られてはいない。図書館からこの点のアナウンスが十分に伝わっていないと考えるがどうか。
- 事務局**：団体貸出以外にも、授業にあった内容の「テーマ貸出」を学校からのリクエストに応じて実施してはいるが、学校への周知に努めていきたい。
- 委員**：教科書の学習の発展で「いろいろな読み物を読みましよう」というものがある。いつ頃何年生がこんな資料が必要であるか調べればわかるので、図書館の所蔵状況を提供してもらいたい。全校で活用すると学校間で取り合いになってしまうが、学校向けのサービスや支援の情報を学校にいただきたい。教員は児童生徒が下校した後に授業の準備を行うので、図書館が18時で閉館するとなかなか活用できない。蔵書数も限られており、授業に活用したくても揃わない、借りに行く時間もない、結果として教員の地元の図書館も活用するということにもなる。教科に使える図書を学校の要望と図書館の現状で上手く活用できると良いと思う。また、県計画で学校図書館を活用した授業の計画的実施とあるが、どうか。
- 事務局**：県計画にはその項目があるが、市の1次計画ではその点は明記していない。
- 委員**：県計画のこの項目はどのようなことを示しているのか。
- 委員**：小学校3年生で図書館の利用の単元があると思うが、学校図書館を使って、公立図書館がこういうものである、ということ、利用方法や分類と共に教えたことがある。
- 委員**：小学校4年生で百科事典の引き方を学ぶ際に、学校図書館で学習している。また、図書館教育支援員と司書教諭の連携が学校によってさまざまである。蕨市は複数校を支援員が担当しているため、授業での連携と言われても困惑するところがある。学校図書館の整理はかなり進んでいるが、授業での連携は今後の課題であり、学校側の意向もあると思う。また、戸田市では司書教諭を図書館が集め、図書館から団体貸出のしくみを説明し、各校でしくみを利用するための総括は司書教諭が担当している。

(5) 蕨市立図書館の開館時間について

館長補佐が議題5資料の主な内容を説明し、質疑応答に入る。

- 委員**：最近では複合施設で運営されているところもあるが、先日行った富山市はガラス美術館との複合施設で日曜から木曜日が9時30分から19時、金・土曜日は9時30分から20時で運営されている。閉館時間だけではなく開館時間についても検討していただきたい。

(6) その他

会長から各委員及び事務局に確認し、その他に入る。

事務局：計画や開館時間を今回と次回に分けて検討していただいているのは、委員の皆様で議論を深めるため、時間も限られているためであるので、ご意見があれば来年1月末日までに事務局へ文書でお願いしたい。特に開館時間は予算も絡んでくるため、29年度は現状予算の枠組みで対応したいため試行を行い、30年度から本格実施できるよう準備したい。開館時間について意見をいただいたが、開館準備にもそれなりの時間を要するので、そのようなところもご理解をいただきたい。

会 長：次回は2月に日程調整のうえ開催するので、出席をお願いしたい。

会長代理から閉会あいさつを行い閉会となる。